

工 事 番 号							
設計年度	令和 8 年度	三原西処理分区污水幹線改築工事 (8-1) 仕様書 公共下水道事業 三原市宮浦二丁目					
施工月日	令和 年 月 日						
施工方法	請 負						
工事期間							
工 事 概 要				起 工 理 由			
路線延長 (污水補助) L=87.3m 管体延長 (管更生工) φ900 L=85.6m							

仕 様 書

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- 1 本特記仕様書は、三原市宮浦二丁目 公共下水道事業 三原西処理分区汚水幹線改築工事 (8-1) に適用する。
- 2 本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。
 - ・土木工事共通仕様書 令和7年8月 広島版
広島県の調達情報のページ (<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/>) - 「技術管理基準等」に掲載している。
 - ・下水道土木工事必携(案) 2021年度 公益社団法人日本下水道協会
 - ・下水道用設計指針と設計標準図 平成26年度改訂版 三原市
 - ・その他関連規格類
- 3 管渠更生工事を施工するに当たっては、技術者が認定等を受けている(公財)日本下水道新技術機構が建設技術審査証明した下水道管渠の更生工法(製管工法)で施工を行い、平成29年7月発刊(公社)日本下水道協会「管きよ更生工法における設計・施工管理ガイドラインー2017年版ー」(以下「ガイドライン」という。)で示す「要求性能」に適合する工法でなければならない。

第2節 現場の管理

受注者は、工事現場内において、管理技術者、主任技術者(下請を含む。)に工事名、工期、顔写真、所属会社名及び証明印の入った名札を着用するものとする。

第3節 部分引渡し

建設工事契約約款第38条により、本工事の内、部分引渡しの必要が生じた場合は、当該部分の検査を受け部分引渡しを行うこと。

第4節 情報共有システム

- 1 本工事は受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること。
- 2 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム
<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html>

- 3 監督員及び受注者が使用する情報共有サービスのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
- 4 情報共有システムを利用した書類は、決裁データ等を整理して中間検査時・工事完成時に CD-R 又は DVD-R（中間検査時 1 部、完成時 2 部）にて提出すること。ただし、電磁的記録しない方が合理的な書類は、監督員と協議の上、紙媒体での提出とすることができる。
- 5 情報共有システムを利用した書類の検査は電磁的記録にて検査する。
検査時に必要となる機器は、原則、受注者が準備することとし、検査に必要な電磁的記録は受注者が当該機器に事前に登録するものとする。
- 6 受注者は、監督員及びサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第 5 節 週休 2 日適用工事

本工事は、週休 2 日工事の対象外とする。

第 6 節 熱中症対策に資する現場管理費の補正

- 1 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正をする工事とする。
- 2 受注者は、補正を希望する場合、監督員と協議すること。
- 3 工事の実施にあたっては「熱中症対策に資する現場管理費の補正の運用について」に基づき、行うこと。

第 7 節 法定外の労災保険の付保

- 1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
- 2 受注者は、建設工事請負契約約款第 5 4 条に基づき、法定外の労災保険の契約締結したときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
- 3 法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乘せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第 8 節 法令及び条例等の遵守

- 1 次の内容について、施工計画書の「その他」項目に記載すること。
 - (1) 工事の実施にあたり、発注者から明示された、又は、受注者が行うべき『法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件』
 - (2) 上記(1)の内容について『不測の事態等が生じた場合の対応方法』

- (3) 上記(1)、(2)の内容について『現場作業に従事する者に対する周知の方法』
- 2 「施工方法」等の関連する項目に、許可承諾条件等を適切に反映すること。
- 3 『法令及び条例等に基づく各種手続き及び許可承諾条件』等の変更が生じた場合は、施工計画書の内容に重要な変更が生じたものとし、変更施工計画書を提出すること。

第2章 施工条件

第1節 用地

- 1 借地 あらかじめ近隣住民に借地する目的、作業内容を充分説明し、同意を得て借地すること。

第2節 公害対策

1 事前・事後調査

調査区分	事前・事後及び工事施工中も大きな被害がある旨の申し出を受けた場合、監督員と協議の上調査すること。
調査時期	施工前・施工中・施工後（1ヶ月以内）
調査内容	柱、屋根、壁、基礎、建具等の傾斜、損傷状況
範囲	別途協議による。

第3節 安全対策

1 交通誘導員・保安要員

工事作業期間中の交通誘導員は、3（人／日）を見込んでいる。

2 酸素欠乏危険作業について

酸素欠乏危険作業を行う場合には、酸素欠乏危険作業主任者を選任し、酸素欠乏危険作業主任者届を提出のうえ作業を行うこと。（酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了証の写しを添付のこと）

酸素欠乏危険作業主任者が行わなければならない事項は、次のとおりである。

- (1) 作業員が酸素欠乏等の空気を吸入しないよう作業の方法を決定し指揮すること。
- (2) 作業を開始する前に、作業を行う場所の空気中の酸素濃度及び硫化水素ガス濃度を測定すること。測定の結果は3年間保存しなければならない。なお、酸素濃度及び硫化水素ガス濃度の測定結果は、監督員からの請求があった場合は、速やかに提示すること。
- (3) 測定器具、換気装置、空気呼吸器等の器具、設備を常備・点検・校正しておくこと。
- (4) 空気呼吸器・酸素濃度及びガス濃度測定器等の使用状況を監視し、取扱方法を研修等で徹底すること。

(5) 作業中、酸素欠乏空気や有毒ガス等が発生した場合は、ただちに必要な措置を講ずるとともに、監督員および関係機関に緊急連絡を行うこと。

第4節 工事用道路

1 一般道路

搬入経路	特に指定しない。
使用期間	工事施工期間
使用時間	8時30分～17時
工事中・後の処置	随時 清掃、 工事後 舗装欠損部補修（工事前・後の写真により監督員と協議すること。）

第5節 建設副産物

1 建設発生土（搬出）（建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積））（指定処分（A））

当該工事により発生する建設発生土は、公の関与する埋立地、建設発生土処分先一覧表に掲載されている建設発生土リサイクルプラント、建設発生土受入地又は建設発生土受入地（一時たい積）のいずれかに搬出するものとする。

2 産業廃棄物の場外保管

当該工事により発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において300m²以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事又は政令市長に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは30日以内に廃止届を提出すること。

ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。

第6節 更生工法

1 施工

- ①管口を傷めないようにガイドローラなどを使用するなど、必要な保護措置を講じ、下水道施設に損傷を与えないよう十分留意すること。
- ②仮締切を必要とする場合は、監督員の承諾を得ること。この仮締切は、上流にいつ水が起こらない構造で、かつ、作業中の安全が確保されるものとする。ただし、上流にいつ水が生じる恐れがある時は、ただちにこれを撤去すること。
- ③受注者が監督員の指示に反して、作業を続行した場合及び監督員が事故防止上危険と判断した場合は、作業の一時中止を命ずることがある。
- ④作業にあたり、道路その他の工作物を、搬出土砂等で汚損させないこと。万一、汚損させたときは、作業終了の都度、洗浄、清掃すること。
- ⑤作業終了後は、速やかに使用機器、仮設物等を搬出し、作業場所の清掃に努めること。

2 管理

- ①施工管理に関わる事項については、「ガイドライン」に準拠し行うこと。
- ②品質管理に関わる事項については、「ガイドライン」に基づき施工前・施工時・しゅん工時について十分管理し、提出書類を作成して監督員に報告すること。
- ③品質管理に必要なサンプル採取・試験の実施等の費用は原則積上げ計上は行わない。
しゅん工時において耐薬品性の試験頻度は工法毎、充てん材の圧縮強度試験は注入日毎とし、製管タイプのうち、日本下水道協会のⅡ類資器材として登録されているものについては、認定工場制度の工場検査証明書類を別途提出することにより、当局の承諾を得たうえで耐薬品性試験の実施は免除できるものとする。
- ④内面に目視確認できるシワ（不十分な前処理も含めて施工不備により更生管内面に生じる断面方向あるいは縦断方向の凸）の発生することのないよう適切な施工を行うこと。
- ⑤出来形管理に関わる事項については、「ガイドライン」に準拠し行うこと。また、既設管と同等以上の水理性能を確保すること。

3 下水汚泥の処理について

- ①計量伝票（原本）マニフェスト等を提出すること。
- ②搬出先においては、許可看板と処分状況が確認できるよう写真撮影を行い提出すること。

4 その他

本仕様書は、現場条件に適合する最も経済的な工法を見込んでおり、実施工法による設計変更はしない。

第7節 その他

1 工事用機資材の仮置き

場 所	指定しない
期 間	指定しない
保管方法	指定しない

第3章 設計金額

第1節 排出ガス対策型建設機械の使用促進

土木工事共通仕様書（令和7年8月広島版）『第1編 1-1-34 環境対策』で使用を義務付けている排出ガス対策型建設機械においては、排出ガス対策型（第2次基準値）以上の建設機械の使用に努めること。

なお、使用する排出ガス対策型建設機械について、基準値による設計変更は行わない。

第4章 第1節 工事保険等

受注者は、本工事において第三者に与えた損害を補填する保険又はその他必要とする建設工事に関連する保険等に加入しなければならない。また、加入した保険等については、保険証券の写し（保険以外の場合はそれに代わるもの）を監督員に提出すること。

なお、加入に必要な保険料等は、設計で現場管理費に見込んでいる。

第5章 工事損失等

本工事の施工に伴い、通常避けることのできない地盤沈下、振動等により建物等に損害等（以下「工事損失」という。）が発生した場合においては、次のとおりとする。

なお、工事損失に伴う補償費用は、設計で現場管理費に見込んでいる。

- | | |
|--------------|---|
| (1) 原因調査 | 監督員と協力して行なうものとする。 |
| (2) 補償交渉 | 監督員と協力して処理解決に当るものとする。 |
| (3) 応急処置 | 監督員から応急処置を講じる必要があると指示された場合は、直ちに応急処置を講ずるものとする。 |
| (4) 補償費用負担割合 | 発注者は、工事損失に伴う補償費用のうち、請負代金額の100分の1を超える額を負担する。 |

第6節 施工合理化調査等

当該工事において受注者は、施工合理化調査等の対象なった場合、資料作成等に協力しなければならない。

第7章 その他

1 更生管仕様については、下記の条件ならびに「ガイドライン」に基づき、更生管構造計算及び耐震計算レベル1及びレベル2を行ない決定することとする。また、その結果がわかる資料を作成し監督員に提出すること。なお、土質条件については、契約後に発注者から受注者に対し、資料を提供する。

自立管

①既設管渠の評価

耐荷能力を見込まない。

②荷重

鉛直土圧と活荷重による鉛直荷重の総和とする。

③更生管厚の算定式

「下水道用硬質塩化ビニル管（JSWAS K-1）」及び「下水道用強化プラスチック複合管（JSWAS K-2）」とする。

複合管

①荷重

鉛直土圧と活荷重による鉛直荷重の総和とする。ただし、水平土圧や活荷重による水平土圧を考慮できる現場条件の場合には水平荷重を見込むことができる。

②更生管の構造計算

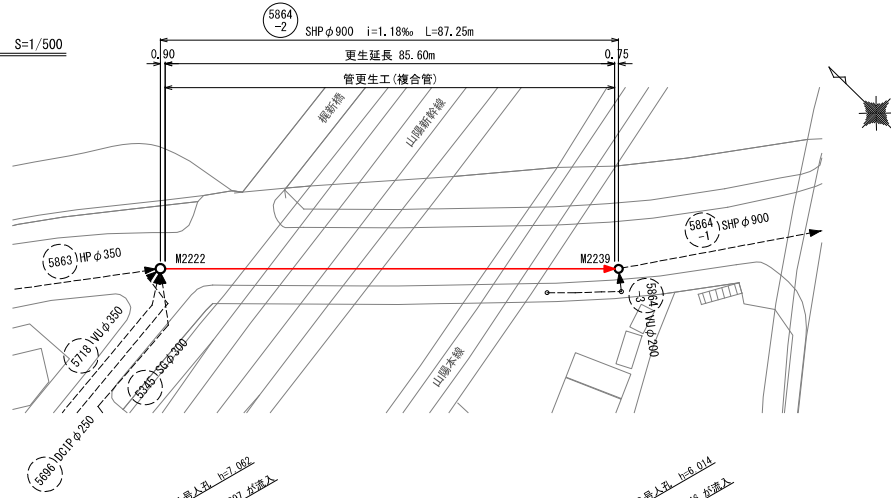
更生管の構造計算は終局耐力を評価できる限界状態設計法によることとする。ただし、JSWAS A-1 の外圧試験に基づき申告値以上又は新管同等以上の耐荷能力が確認できる場合はこの限りではない。

- 2 本工事内及び近接する地域住民、企業等には工事内容等を十分に周知・調整したうえで、苦情やトラブルのないよう施工に努めること。
また、特記仕様書及び設計図書に明示していない事項、または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

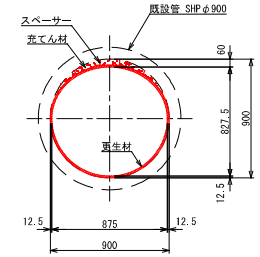
工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
本工事費					
管路施設(管きよ更生工法)		式		1	レベル1
管きよ更生工		式		1	レベル2
管きよ内面被覆工(製管工法)		式		1	レベル3
更生材料		式		1	レベル4
製管		m		85.6	レベル4
裏込め		式		1	レベル4
仕上		式		1	レベル4
仮設備		式		1	レベル4
換気工		式		1	レベル3
換気設備		式		1	レベル4
仮設工		式		1	レベル2
交通管理工		式		1	レベル3
交通誘導警備員		式		1	レベル4
直接工事費					
準備費					
準備費		式		1	レベル2
準備費		式		1	レベル3

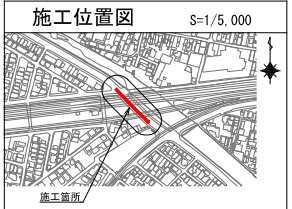
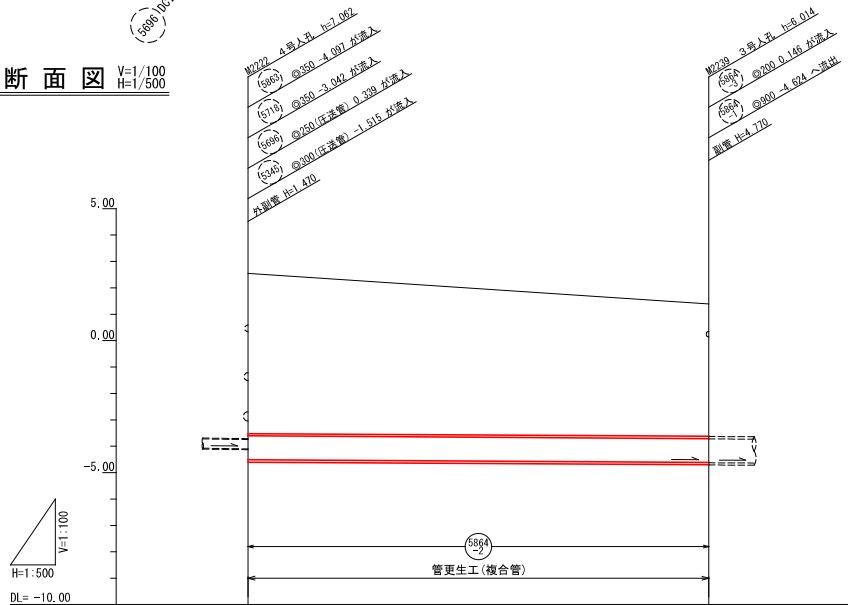
平面図 S=1/500



管更生工断面図 S=1/20



縦断面図 V=1/100
H=1/500



管径 (mm)	SHP φ900	
勾配 (%)	1.18	
区間距離 (m)	87.25	
地盤高	2.15	1.39
土被り	6.07	5.07
管底高	-4.512	-4.615
掘削深		
追加距離	0.00	87.25
測点	M2222	M2239

この図面は実際の図面を約50%に縮尺している。

令和8年度 公共下水道事業(污水)		
工事名	三原西処理分区汚水幹線改築工事 (8-1)	
工事場所	三原市 宮浦二丁目	
図面番号	1	縮尺 図示
平面図・縦断面図・管更生工断面図		
三原市		

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日	0 59 三原市 00-08.05.01(0)		≪凡例≫ Co・・・コンクリート As・・・アスファルト DT・・・ダンプトラック BH・・・バックホウ CC・・・クローラクレーン TC・・・トラッククレーン RTC・・・ラフテレーンクレーン
諸経費体系	1 公共(一般)		
	当世代	前世代	
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 ICT補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	42 下水道工事(4) 02 市街地(DID補正) 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)		
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
管路施設(管きよ更生工法)					Y1I05 レベル1
管きよ更生工	1	式			Y1I0501 レベル2
管きよ内面被覆工(製管工法)	1	式			Y1I050101 レベル3
更生材料	1	式			Y1I05010101 レベル4
更生管材 既設管径 900mm	2,844	m			F0001 00
製管	85.6	m			Y1I05010102 レベル4
製管工(自走式)	85.6	m			V0001 00
更生管材溶接工	4	箇所			単第0 -0001 表 V0002 00
					単第0 -0003 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
裏込め					Y1I05010103レベル4
	1	式			
注入口取付工					V0003 00
	1	スパン			単第0 -0004 表
注入用内部配管材損料					F0005 00
	85.6	m			
支保工兼浮上防止工 既設管径 900mm					V0005 00
	85.6	m			単第0 -0006 表
支保材損料 既設管径 900mm					V0006 00
	1	式			単第0 -0007 表
注入工 既設管径 900mm					V0007 00
	8.6	m3			単第0 -0008 表
仕上					Y1I05010104レベル4
	1	式			
マンホール口仕上工					V0008 00
	2	箇所			単第0 -0012 表
仮設備					Y1I05010105レベル4
	1	式			

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
製管設備設置撤去工	3	回			V00010 00 単第0 -0014 表
巻出しリング作成工	1	回			V00011 00 単第0 -0016 表
製管機搬入組立工	1	回			V00012 00 単第0 -0017 表
製管機分解搬出工	1	回			V00013 00 単第0 -0018 表
機械器具損料	1	式			V00014 00 単第0 -0019 表
換気工	1	式			Y1I050103 レベル3
換気設備	1	式			Y1I05010301 レベル4
換気設備工	12	日			SG1D2200001 00 単第0 -0020 表
仮設工	1	式			Y1I0205 レベル2

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
交通管理工	1	式			Y1J010121 レベル3
交通誘導警備員	1	式			Y1J01012101 レベル4
交通誘導警備員B	36	人			R0369 00
直接工事費 #0020計=支給品等(材料), 無償貸付					
準備費					Z0005
準備費	1	式			YZZ05 レベル2
準備費	1	式			YZZ05001 レベル3
既設管調査工	1	式			YZZ05001004 レベル4
管渠洗浄工	85.6	m			V00015 00 単第0 -0022 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本管潜行目視調査工	85.6	m			V00018 00 単第0 -0025 表
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					
** 工事原価 **					
一般管理費率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
一般管理費計					
工事価格					
消費税相当額 計算情報…… 対象額…… 率……					
工事費計					
契約保証費計					

施工単価表

製管工（自走式）

V0001

単第0 -0001 表

頁0 -0008

1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
トンネル世話役	1	人			
トンネル特殊工	2	人			
トンネル作業員	2	人			
特殊作業員	2	人			
普通作業員	2	人			
機-16_発動発電機(ディーゼル発電機)運転 定格容量45kVA	1	日			単第0-0002 表
諸雑費	10	%			#01
1m当り（計/1日当り製管延長）		m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施工単価表

更生管材溶接工

V0002

単第0 -0003 表

頁0 -0010

1 箇所 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
トンネル世話役	1	人			
トンネル特殊工	2	人			
トンネル作業員	2	人			
普通作業員	1	人			
塩ビ溶接機損料	1.75	供用日			
諸雑費	50	%			#01
1m当り (計/1日当り溶接箇所)		箇所			
*** 単位当たり ***	1	箇所			

施工単価表

支保工兼浮上防止工
既設管径 900mm

V0005

単第0 -0006 表

1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
トンネル世話役	1	人			
トンネル特殊工	1	人			
トンネル作業員	2	人			
特殊作業員	1	人			
普通作業員	1	人			
諸雑費	3	%			#01
1m当り (計/1日当り設置・撤去延長)		m			
*** 単位当たり ***	1	m			

施工単価表

注入工
既設管径 900mm

V0007

単第0 -0008 表

1 m3 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
裏込材 21B	11.23	m3			
トンネル世話役	1	人			
特殊作業員	2	人			
トンネル特殊工	1	人			
普通作業員	3	人			
トンネル作業員	1	人			
機-18_トラック運転 021_クレーン装置付 ベーストラック4t級 吊能力2.9t	1	日			単第0-0009 表
機-19_給水車運転 4t 121kW	1	日			単第0-0010 表
機-16_発動発電機(ディーゼル発電機)運転 定格容量60kVA	1	日			単第0-0011 表
自動注入装置損料	1	日			
1m当り (計/1日当り注入量)		m3			
*** 単位当たり ***	1	m3			

施工単価表

製管設備設置撤去工

V00010

単第0 -0014 表

頁0 -0021

1 回 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
トンネル世話役	0.38	人			
トンネル特殊工	0.75	人			
トンネル作業員	0.75	人			
特殊作業員	0.38	人			
普通作業員	0.38	人			
トラック運転 021_クレーン装置付 ベーストラック4t級 吊能力2.9t	3	時間			単第0-0015 表
諸雑費	2	%			#01
*** 単位当たり ***	1	回			

施工単価表

巻出しリング作成工

V00011

単第0 -0016 表

頁0 -0023

1 回 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
更生管材 既設管径 900mm	32.84	m			
トンネル世話役	0.13	人			
トンネル特殊工	0.25	人			
トンネル作業員	0.25	人			
特殊作業員	0.13	人			
普通作業員	0.13	人			
機-16_発動発電機(ディーゼル発電機)運転 定格容量45kVA	0.13	日			単第0-0002 表
諸雑費	2	%			#01
*** 単位当たり ***	1	回			

施工単価表

製管機搬入組立工

V00012

単第0 -0017 表

頁0 -0024

1 回 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
トンネル世話役	0.19	人			
トンネル特殊工	0.38	人			
トンネル作業員	0.38	人			
特殊作業員	0.19	人			
普通作業員	0.19	人			
トラック運転 021_クレーン装置付 ベーストラック4t級 吊能力2.9t	1.5	時間			単第0-0015 表
諸雑費	3	%			#01
*** 単位当たり ***	1	回			

施工単価表

製管機分解搬出工

V00013

単第0 -0018 表

頁0 -0025

1 回 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
トンネル世話役	0.13	人			
トンネル特殊工	0.25	人			
トンネル作業員	0.25	人			
特殊作業員	0.13	人			
普通作業員	0.13	人			
トラック運転 021_クレーン装置付 ベーストラック4t級 吊能力2.9t	1	時間			単第0-0015 表
諸雑費	3	%			#01
*** 単位当たり ***	1	回			

施工単価表

管渠洗淨工

V00015

単第0 -0022 表

頁0 -0029

1 m 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	0.691	人			
特殊作業員	0.691	人			
普通作業員	0.691	人			
高压洗淨運転	4.631	時間			単第0-0023 表
給水車運転	5	時間			単第0-0024 表
諸雑費	1	%			#01
1m当り (計/1日当り製管延長)		m			
*** 単位当たり ***	1	m			

数量総括表

工種	種別	細別・施工名称	規格・寸法	単位	数量	備考
施工前管渠内処理工 既設管径900mm						
	管渠内洗浄工	φ900		m	85.6	
	目視調査工	φ900		m	85.6	
管きよ更生工 既設管径900mm		L=87.250m				
	管きよ内面被膜工 (製管工法)	線路延長		m	87.3	
		更生延長		m	85.6	
		プロファイル	#80S	m	2844	
		製管工		m	85.6	
		〃	プロファイル接続工	箇所	4	
		間詰め注入工	21B	m	85.6	
		〃	間詰め注入量	m ³	8.6	
		〃	注入口取付工	スパン	1	
		〃	支保工兼 浮上防止工	m	85.6	
		〃	支保材損料	セット	44	
		仕上	管口仕上	箇所	2	
		仮設備工		式	1	
換気工	換気設備工			日	12	

数量集計表

名 称	算 定 式	単 位	数 量
管きよ更生工事			
施工箇所	5864-2 路線		
既設管口径	φ 900 mm		
線路延長	87.3	m	87.3
更生延長	85.6	m	85.6
(1)材料	85.6	m	85.6
プロファイル #80S	2844	m	2844
(2)製管工	85.6	m	85.6
プロファイル接続工	4.0	箇所	4.0
既設管内洗浄工	85.6	m	85.6
(3)間詰め材注入工	21B 85.6	m	85.6
間詰め材注入量	8.6	m ³	8.6
注入口取付工	1.0	スパン	1.0
粘土モルタル量	0.012	m ³ /スパン	-
浮上防止工	85.60	m	85.6
支保材損料	44	セット	44
(4)機械器具損料	1.0	式	1.0
(5)管口仕上げ工	2	箇所	2
(6)仮設備工	1.0	式	1.0
(7)換気工			
軸流ファン	1.0 50/60 m ³ /min	台	1.0

数量計算書

名 称	算 定 式	単 位	数 量	積算頁
管きよ更生工事				
既設管口径	5864-2 路線 900 mm			
線路延長	L= 87.3 m			
更生延長	L= 85.6 m			
(1) 材料費	L= 85.6 m			
(2) 製管工	L= 85.6 m			
(3) 間詰め材注入工	L= 85.6 m			
(4) 管口仕上げ工	N= 2 箇所			
(5) 換気工	N= 1 式			
(6) 管内作業時間	8 時間			
断面図				
A区間 既設管内径φ950mm L=10.60m				
B区間 既設管内径φ902mm L=75.00m				
平均内径				
$\left(950 \times 10.60 + 902 \times 75.00 \right) \div 85.60 = 908 \text{ mm}$				

数量計算書

名 称	算 定 式	単 位	数 量	積算頁
材料費				
(1)面積・周長	L= 85.60 m			
中性化厚	t= 0 mm			
既設断面積	既設管内径 D= 908 mm = 0.908 m A1= $\pi/4 \times 0.908^2 = 0.648$ m ²			
既設周長	L1= $\pi \times 0.908 = 2.853$ m			
更生断面積	d= 820 mm = 0.820 m 内側A1= $\pi/4 \times 0.820^2 = 0.528$ m ² 外側A2= $\pi/4 \times (0.820 + 0.0163 \times 2)^2 = 0.571$ m ²			
更生周長	内側L1= $\pi \times 0.820 = 2.576$ m 中心L2= $\pi \times (0.820 + 0.0163) = 2.627$ m			
(2)プロファイル延長の算出	プロファイル延長(PrfL)= $\pi \times D \times L / W$ D: 更生管径(d)+1/2×プロファイルの高さ(H)×2(m) W: プロファイルの幅(m) L: プロファイルの計上延長(m)			P.9
プロファイル幅(W)	#80S W= 0.080 m			
プロファイル高(H)	H= 0.0163 m			
プロファイル計上延長(m)	L= 85.600 + 1.0 - 0.00 = 86.600			
1m当りのプロファイル長	Prf= $\pi \times (0.820 + 0.0163 / 2 \times 2) / 0.080 = 32.841$ m			
(2)材料				
プロファイル延長(PrfL)	PrfL= $\pi \times (0.820 + 0.0163 / 2 \times 2) \times 86.600 / 0.080 = 2844$	m	2844	

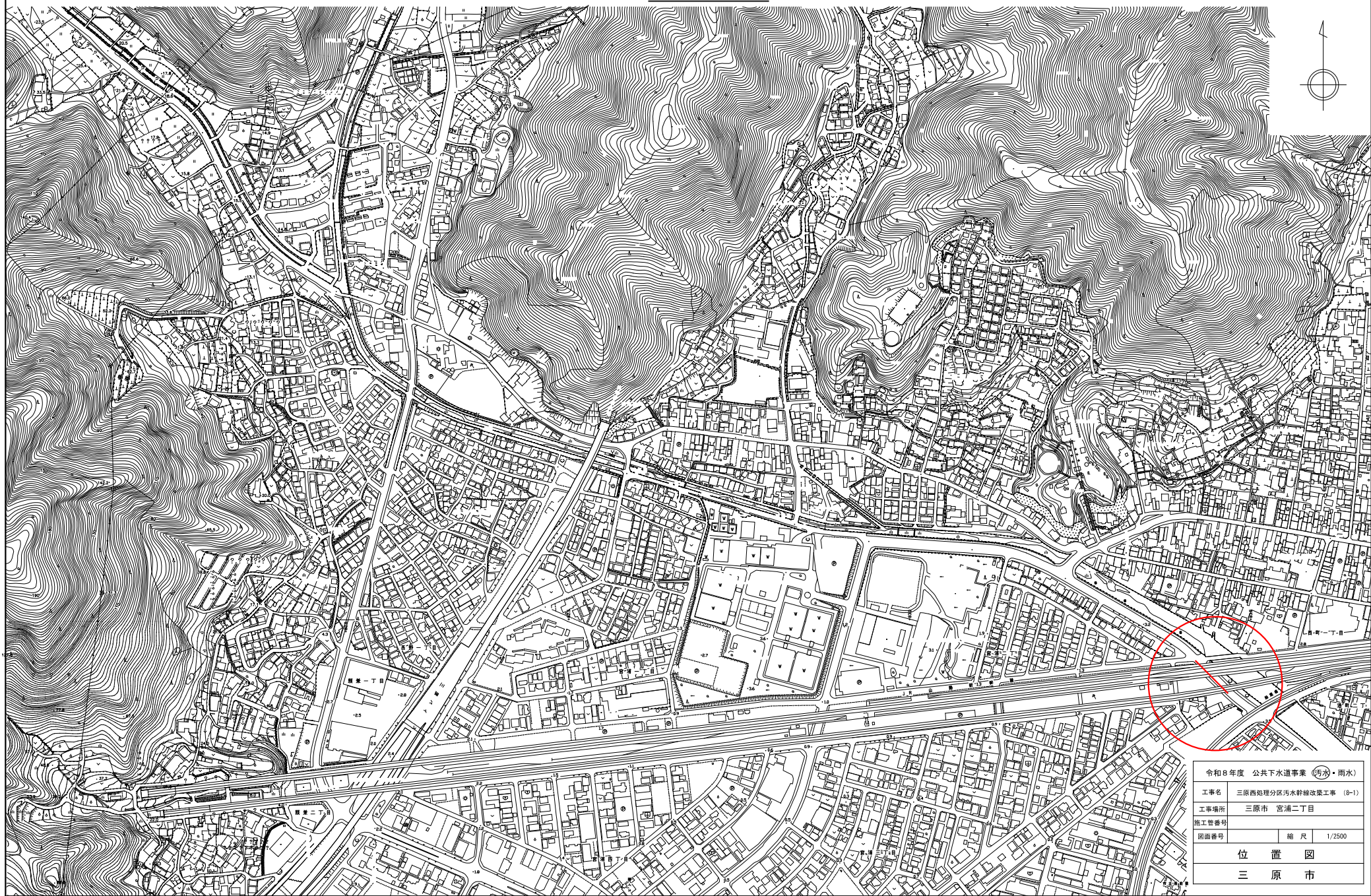
数量計算書

名 称	算 定 式	単 位	数 量	積算頁
製管工				
(1)プロファイル製管工	L= 85.60 m	m	85.60	
製管日数	製管日数の計算 $n=[(PrfL \div PrfDL) - D1] \div D2 + 1$ (端数切上整数) n: 製管日数: 製管設備設置・撤去回数 PrfL: 1スパン当りプロファイル延長 2844.065 m 直線用 = 2844.065 m PrfDL: 1ドラム当りプロファイル延長 1000 m (P.9) PrfL= D1: 初日に使用するドラム数 0.88 巻 (P.42) PrfL= D2: 1日当りドラム使用数 1.35 巻 (P.42)			P.42
1ドラムプロファイル延長	$P = \left\{ \frac{2844.065}{1.35} \div 1000 - 0.88 \right\} \div 3 = 2.45$ 日			
プロファイル接続工	1ドラムプロファイル延長 PfL/P 直線用 2844.07 / 1000 = 2.844 巻 溶接回数 $Jo = PfL \div P - 1 + (\text{製管日数} - 1)$ $J1 = (2.844 - 1) = 2$ 回 $J2 = 3 - 1 = 2$ 回 合計 $Jo = 2 + 2 = 4$ 回			P.73
既設管内洗浄工	L= 85.60 m 高圧洗浄車ジェット式	m	85.60	
		箇所	4.0	

数量計算書

名 称	算 定 式	単 位	数 量	積算頁
間詰め材注入工				
(1)間詰め材注入工	L= 85.60 m	m	85.60	
間詰め材注入量	注入量の算定 $Q=[\pi \times \{D^2-(d+H \times 2)^2\}/4+PrA \times 10^{-6} \times PrE] \times (bgL-\Delta t \times 2)$ Q: 注入量 D: 既設管径 0.908 m d: 更生管径 0.820 m H: プロファイル高さ 0.0163 m PrA: プロファイル部の注入断面積 740 mm ² #80S PrE: 製管1m当りプロファイル延長 32.84 m bgL: 間詰め注入延長(管渠延長) 85.60 m 直線用 Δt: 管口シールモルタル厚(標準0.05) 0.05 m			P.21
合計	$Q = [\pi \times \{ 0.908^2 - (0.820 + 0.0163 \times 2)^2 \} / 4 + 740 \times 10^{-6} \times 32.84] \times (85.60 - 0.05 \times 2) = 8.628$	m ³	8.628	
1日当り注入量	10.80 m ³			
間詰め使用量	10.80 × (1 + 0.04) = 11.23	m ³	11.23	
注入口取付工		スパン	1.00	
粘土モルタル量	粘土モルタル量の算出 $V=[\pi \times (D1^2-D2^2)]/4 \times 0.05 \times 2$ V: 粘土モルタル数量(m ³ /1スパン) D1: 既設管呼び径 0.908 m D2: 更生管径 0.820 m $V = \{ \pi \times (0.908^2 - 0.820^2) \} / 4 \times 0.05 \times 2 = 0.0119$	m ³ /スパン	0.012	P.23
支保工兼浮上防止工	L= 85.60 m	m	85.60	
支保材損料	85.60 ÷ 2.0 + 1 = 43.8	セット	44	

位置図 S=1/2500



令和8年度 公共下水道事業 (汚分・雨水)	
工事名	三原西処理分区汚水幹線改良工事 (8-1)
工事場所	三原市 宮浦二丁目
施工管理番号	
図面番号	縮尺 1/2500
位置図	
三原市	